

いつでも夢を

夢と聞いただけで、私は心が温かくなるような気がするし、人それぞれ、大きな夢であれ、小さな夢であれ、いつでも夢をもちたいものであると考える。様々な夢が、今そのときの決心によって希望となり、実現に向けての努力の道しるべになって、頑張り続けることで、現在の生き方を充実したものにすることができるのである。ましてや、中学生である十代のとき、限りなく膨らむ夢は、生きていく青春のエネルギーとなるであろう。

私がM中学校の校長として赴任して一年目の秋、十一月七日にタイムカプセルの開扉式が行われた。このタイムカプセルは、M中学校創立二十五周年記念式典が挙行されたときの記念として、当時の三年生の生徒の作文等を納めたもので、卒業してから二十五年後にこれを開けようということになっていた。開扉式の日には、二十五年前の恩師を迎え、好天に恵まれて、菊薫る中、たくさんの卒業生が参加した。タイムカプセルは、劣化もほとんど無く、開いてみると「歴史の証言」と墨書きした封筒が出てきて、その中の作文のいくつかが紹介された。作文はそれぞ

れの二十五年後、つまり四十歳のときどのような生き方をしているのかを短冊に記したものであった。式後の同窓会でも「すごい、当たっているじゃないの」とか、「そんなこと書いたのは全然記憶に残ってないよ」など、話が弾んだ。この日同窓生は、誰もが生き生きと輝いているように感じた。なぜ、そう感じたのだろうか。二十五年前、自分の将来の夢・生き方を描く契機が

教育随想



北区 植竹中学校長

江原 政 雄

あった。そして、その夢が実現できたかどうかということもあるが、大抵は実現できなかったにせよ、実現しようとして頑張ったという実感をもって、今の自分の生き方を肯定的にとらえることができる。私は、学校教育目標の「たくましく」とは、健康と体力に加えて、『夢実現へのチャレンジ精神』でもありと強く意識した。

M中学校長として三年目の一月に、宇宙飛行士として、前年の十月に二度目のスペースシャトルに乗った若田光一氏が、母校に帰還報告ということで訪れた。九百名近い生徒の前で、「夢や目標をしっかりと努力してほしい」と語りかけた。「偉大な先輩のように目標をもって毎日頑張りたい」と生徒達は感激の感想を表した。私は翌年、新設のH中学校長を拝命したが、M中学校の後任校長は、学校教育目標の大目標として「夢ひとすじに」を掲げたということである。

教育とは、子ども達に夢を与える作業である。そして、学校は、一人ひとりの子どもが自分の夢を描き、その実現のための意欲と能力を身に付けさせていく場であり、夢や希望を叶える機会が進路指導や部活動であると、私は常々考えている。M中の後、目指す学校像を、「歌声が響き、笑顔が行き交い、夢がふくらむ学校」(H中学校)、「楽しく学び、心を耕し、夢や希望にあふれる学校」(植竹中学校)とし、夢をもつ中学生を指向して学校づくりをしてきたところである。

ふと、テレビに目をやると、某銀行のCMが映っていて、俳優大杉漣がメロディーを口ずさんでいた。「いつでも夢を、いつでも…」(えはら まさお)